

# ひと目でわかる SharePoint Server 2013



本資料は、日経 BP 社より発売されている「ひと目でわかる SharePoint Server 2013」に関するアップデート情報を提供するものです。オフィスアイ株式会社は本書籍の第 3 部および第 4 部を主に執筆しておりますので、その部分に関しての正誤表並びにその他の補足情報をご提供します。

作成日 2014 年 4 月 24 日 | 更新日時 : 2014 年 04 月 24 日

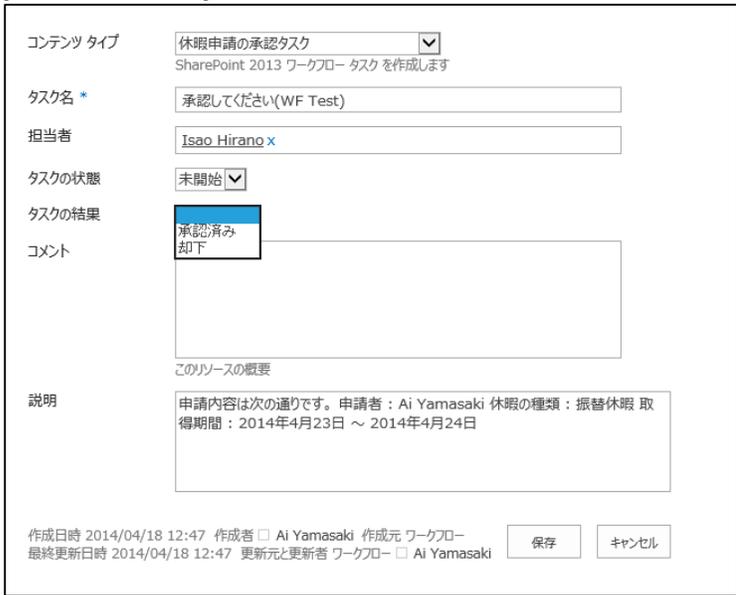
## 正誤表

書籍の正誤表です。

該当箇所	説明
P535 ~ P536	<p>P536 で ULS ログの説明をしていますが、ULS ログは診断ログであるため P535 で説明するべきでした。したがって P535 のリードは下記となるべきでした。</p> <p>***[診断ログ]***</p> <p>SharePoint 上で問題が発生した場合の解決の手がかりとして、イベント ログとトレース ログを取得するよう構成します。イベントログは Windows イベントのログです。トレースログは、SharePoint サービス アプリケーションの動作記録などのサービスに関する情報が記録されます。<b>このログは ULS (Unified Logging Service) ログとも呼ばれ、SharePoint ルートディレクトリ内(既定では %ProgramFiles%\Common Files\Microsoft Shared\web server extensions\15)の LOGS フォルダに書き込まれます(*.log)。</b></p> <p>*****</p> <p>また P536 のリードは下記とすべきでした。</p> <p>***[Usage and Health data Collection]***</p> <p>Usage and Health data Collection サービス アプリケーションがログ フォルダとログ データベース (WSS_Logging)に利用状況や正常性データを作成します。<b>このログは ULS (Unified Logging Service) ログとも呼ばれ、SharePoint ルートディレクトリ内(既定では %ProgramFiles%\Common Files\Microsoft Shared\web server extensions\15)の LOGS フォルダに書き込まれます(*.log)。</b></p> <p>*****</p>

## 補足情報

書籍の内容の補足情報です。

該当箇所	説明
P420	ワークフローを動作させる際には、ユーザーは最低限 投稿アクセス許可レベルを持っている必要があります。閲覧や閲覧のみのアクセス許可レベルのユーザーはワークフローの手動開始ができません。
P424	“ヒント：アプリステップと代理ステップ” についての補足ですが、アプリ ステップ内では SharePoint 2010 ベースのワークフローの呼び出しはできないので注意してください。
P425～	<p>シンプルな承認ワークフローの作成手順を説明していますが、SharePoint Online 上で同様の手順で作成した場合は承認タスクを編集する際に承認や却下がボタンとして表示されず、ドロップダウンメニューになってしまいます (2014/4/24 現在)。</p> <p>[SharePoint Online]</p>  <p>P426 の 9 番目の手順にて 達成率(%) 列を削除していますが、この設定が影響しているようです。SharePoint Online をご利用の方は、ワークフロータスクのコンテンツタイプを作成する際に、達成率の列は削除しないように注意してください。</p> <p><b>※なお、書籍はオンプレミス環境を対象としています。</b></p>
P466～	サイトコレクションの管理手順はパスポールのサイトコレクションの作成手順です。これ以外にもホスト名付きサイトコレクションを作成することも可能です。URL が自由に指定できる反面、Windows PowerShell でのみ作成できるなどいくつか注意事項があります。詳しくは弊社のオリジナル研修「SharePoint Server 2013 と周辺技術」で説明しています。